

ナシのナシヒメシンクイ成虫が平年より多く発生しています

6月中旬・下旬の防除を確実に実施してください

[現在の状況]

6月第2半旬現在、県予察ほ場（笠間市，園芸研究所）に設置したフェロモントラップへのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺は平年よりやや早く，誘殺数は平年より多い（図）。

県予察ほ場における6月第2半旬までの誘殺数推移のパターンは，ナシヒメシンクイが多発生し，ナシでの被害が平年よりやや多かった平成18年（図）及び平成13年と類似している。

6月第2半旬現在，地区予察ほ場（小美玉市，石岡市，土浦市）に設置したフェロモントラップのうち，土浦市における誘殺数は平年より多い。

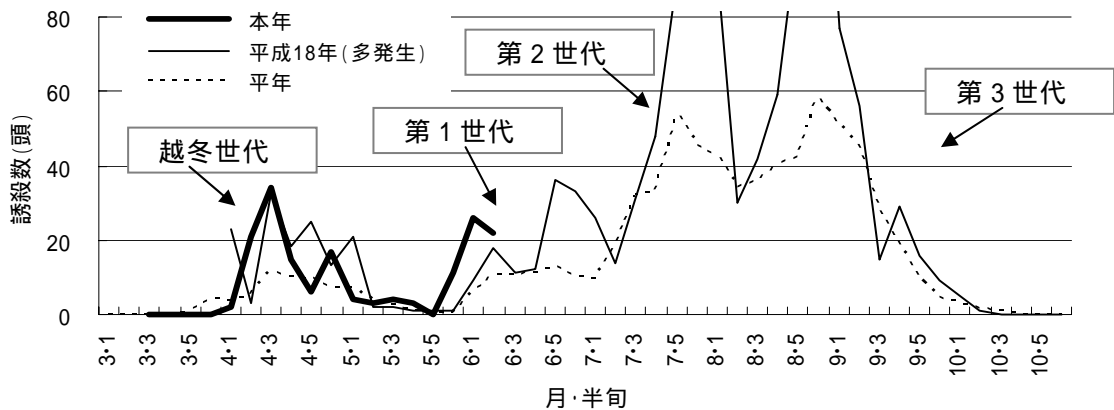


図 フェロモントラップによるナシヒメシンクイ雄成虫の発消長（笠間市）

[防除対策]

例年被害が多くなるのは7月下旬以降であるが，収穫時期の発生と被害を防ぐためには，本種の齢期が揃っている6月中に確実な防除を行うことが重要である。

次世代幼虫の防除適期は，孵化幼虫が果実内に侵入する直前で，6月第5半旬頃と予想される。茨城県赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例に基づき，6月中旬のスプラサイド水和剤及び6月下旬のオリオン水和剤40による薬剤防除を確実に実施する。防除の際は，収穫前日数に十分注意する。

薬液は，10a当たり300リットルを目安にし，かけむらのないよう丁寧に散布する。なお防除は，周囲への飛散（ドリフト）に十分注意した散布方法で行う。被害果を見つけた場合は，土中深く埋めるなど速やかに処分して，次世代の発生を軽減する。

【ナシヒメシンクイの生態】

老熟幼虫が越冬し，4月上旬頃から越冬世代成虫が発生し，第1世代幼虫はモモ，ウメなどの新梢を食害する。その後第1世代成虫は6月下旬頃，第2世代成虫は7月下旬頃，第3世代成虫は8月下旬～9月上旬頃に発生する。ナシへの加害は，第2世代以降の幼虫が主体である。一般的に世代を重ねるごとに発生が多くなるため早い世代のうちに適期防除すると，被害軽減効果が高い。